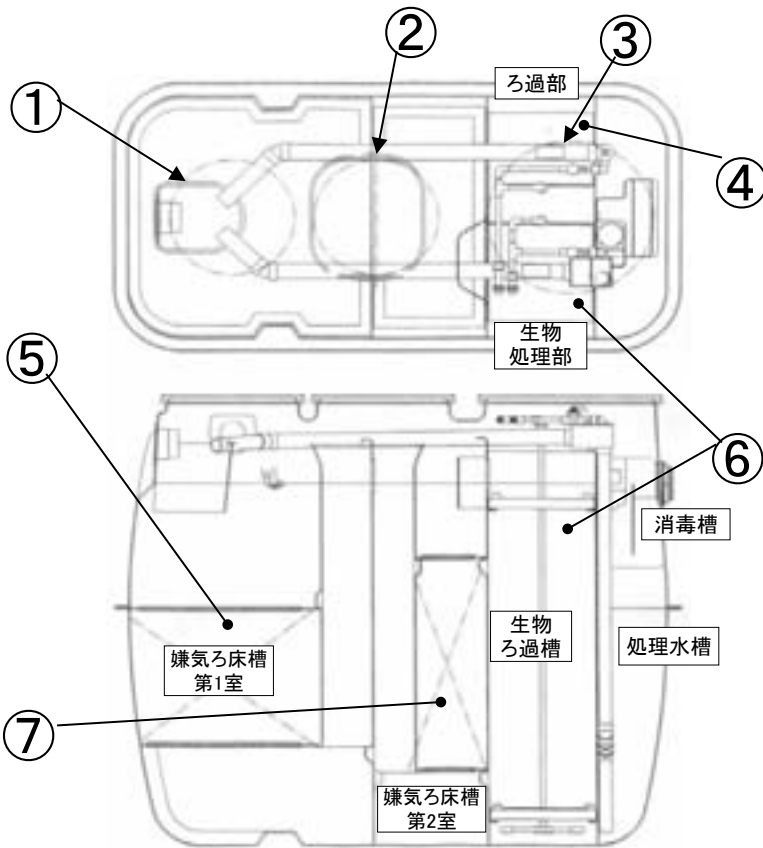
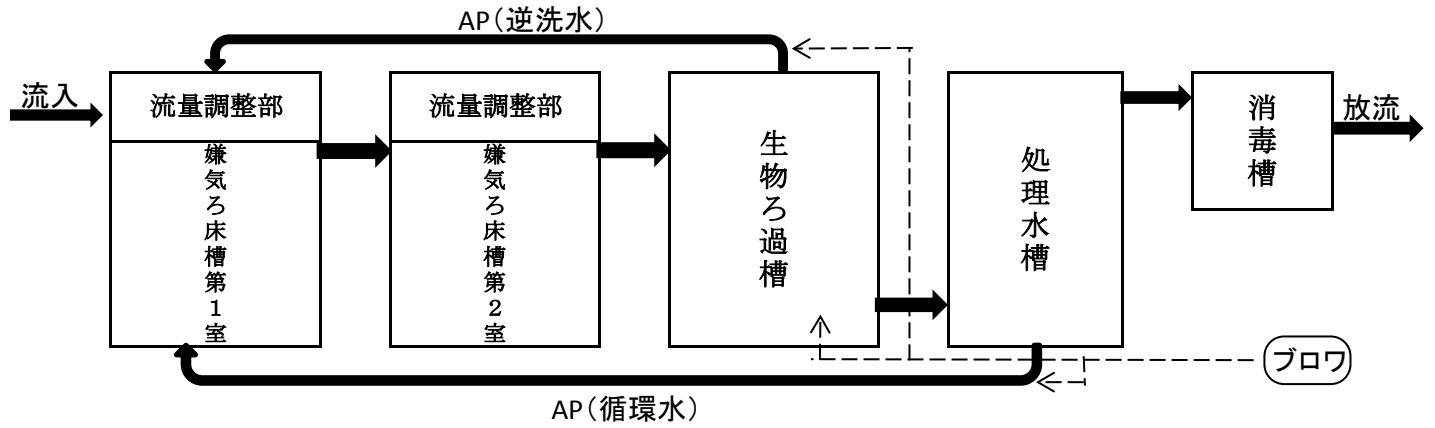


GPC 日本ゼオン(株) OEM: DOS-PC ダイワ化成(株) 共同開発: KGC2 (株)ハマネツ 処理方式: 嫌気ろ床と生物ろ過を組み合わせた方式 5・7・10人槽	BOD除去型		全浄協登録値			
			BOD	SS	T-N	
			20mg/L以下	—	—	
			性能評定または性能評価値			
			BOD	SS	T-N	
		20mg/L以下	15mg/L以下	—		



- ①嫌気ろ床槽第1室
- ②嫌気ろ床第2室
- ③生物ろ過槽
- ④ろ過部担体
- ⑤嫌気ろ床槽第1室ろ材
- ⑥生物処理部担体
- ⑦嫌気ろ床槽第2室ろ材

有効容量 (m ³)		5人槽	7人槽	10人槽
槽名	嫌気ろ床槽第1室	1.044	1.495	2.334
	嫌気ろ床槽第2室	0.544	0.814	1.176
	生物ろ過槽		0.506	0.692
	処理水槽		0.248	0.308
	消毒槽		0.017	0.022
合計		2.359	3.080	4.532

槽底部からろ材受け面までの距離 (mm)	第1室	400
	第2室	300

循環装置	エアリフトポンプ(循環) バルブ開度(%)			Vノッチ	散気バルブ	逆洗バルブ	エアリフトポンプ(逆洗水) バルブ開度(%)		
	5人	7人	10人				5人	7人	10人
有	10~20			有	無	有	40~45		

人槽	ブロウ風量 (ℓ/分)	逆洗風量 (ℓ/分)	エアリフト用 (ℓ/分)	逆洗時間 (分)	逆洗時刻	逆洗回数 (回)	逆洗周期	ブロウの逆洗時間等
5・7・10	80	80	-	10	2:00	1	1日	3回まで設定可能

[人槽に対する循環水量・三角ノッチ・逆洗水量の設定範囲]

人槽		5人	7人	10人		
循環装置	エアリフトポンプ	移送水量(ℓ/分)		2.1~2.7	2.9~3.9	4.2~5.0
循環装置	三角ノッチ	mm		15	20~25	25~30
逆洗装置	エアリフトポンプ	移送水量(ℓ/分)		20~30		

・循環移送水量・逆洗移送水量は、(1)使用水量(日平均汚水量) (2)実使用人員、(3)人槽 の優先順位で判断して上記の範囲になるように調整してください。

特 徴

嫌気ろ床槽 第1室は下向流、第2室は上向流である。第1室は骨格様球状ろ材、第2室は網様円筒状ろ材である。

生物ろ過槽 隔壁によって左右に区分され、消毒槽に向かって右側が生物処理部、中央部分は移流管(清掃口も兼用) 左側がろ過部となります。生物処理部、ろ過部の双方に中空円筒状担体(φ17×L17mm)が充填(ろ過部は静置)されています。生物処理部、ろ過部双方とも下向流となります。移流管(清掃口も兼用)は上向流となります。ろ過部では閉塞防止のためタイマー制御(初期設定は1日1回、AM2時から10分間)にて逆洗を実施し、剥離汚泥を嫌気ろ床槽第1室に移送する。

処理水槽 槽内水は上向きに流れ、消毒槽へ流出する。一部の処理水は取水口より循環エアリフトポンプにて嫌気ろ床槽第1室へ循環される。

作 業 時 の ポ イ ン ト

保守点検

- ①嫌気ろ床槽のスカム厚、堆積汚泥の状況、ろ材の閉塞が無いかを確認してください。
- ②生物ろ過槽の槽内水、流出水の性状及び底部汚泥の堆積状況を点検してください。加えて担体押さえ面を洗浄し、ばっ気の状況(気泡の均一な上昇等)及び生物ろ過部への移流の状況などを確認、槽内水、流出水にSSが多い場合、逆洗不足が認められた場合、逆洗頻度の増加を検討してください。
- ③循環用エアリフトポンプはバルブ開度(通常10~20%)、調整ゲート高、Vノッチ高を点検してください。移送水量を実測して確認し、洗浄後は水量を再調整してください。
- ④ブロウの稼働状況を確認時、あわせてブロウのタイマーの現在時刻と自動逆洗の設定を確認してください。

清掃

- ①嫌気ろ床槽第1室は全量引き抜き、第2室は適正量引き抜いてください。その他単位装置は必要に応じて実施してください。